

# 54 「社会福祉法人の地域貢献事業」

社会福祉法人青山里会 堀尾 栄

## 1 はじめに

社会福祉法人青山里会 35年の歴史は、「人々が住みなれた場所、暮らし続けたい場所で、いつまでも、豊かに、安心して暮らせる街づくり」を目指し、さまざまな生活課題・ニーズをもつ人々、社会に対して、必要な時に必要な機能、サービス、施設等を開発、整備を行い、医療と福祉の連携のもと、包括的サービスで地域の人々の生活を支援してきた(図1)。

その根底には、当法人の理念である

- (1) ノーマライゼーション…年齢や障害のあるなしにかかわらず、すべての人が平等に、豊かに、安心して暮らすことがあたりまえであるという思想
- (2) C. S…社会福祉(生活)の対象、相談者・調整依頼人であるクライアントの満足(client satisfaction)や、すべての人々を含めた地域社会であるコミュニティの満足(community)

を基本に、要援護者、介護者等のみならず、地域住民ひとりひとりのニーズに対応し、そして常に地域を意識し、地域住民とどう連携するのか、どう協働していくかを意識してきたことが最も大きいと考えられる。

しかし、地域との連携・協働とひとことでも、福祉施設という存在は地域の中でも特殊な存在であり、最初から地域の一員として認められる以前に正しく理解されないということが常である。だからこそ、まずは地域の人々に施設の中に足を踏み入れてもらうこと、正しく理解を得ることが第一歩であった。

## わたしたちは包括的サービスで地域生活をサポート

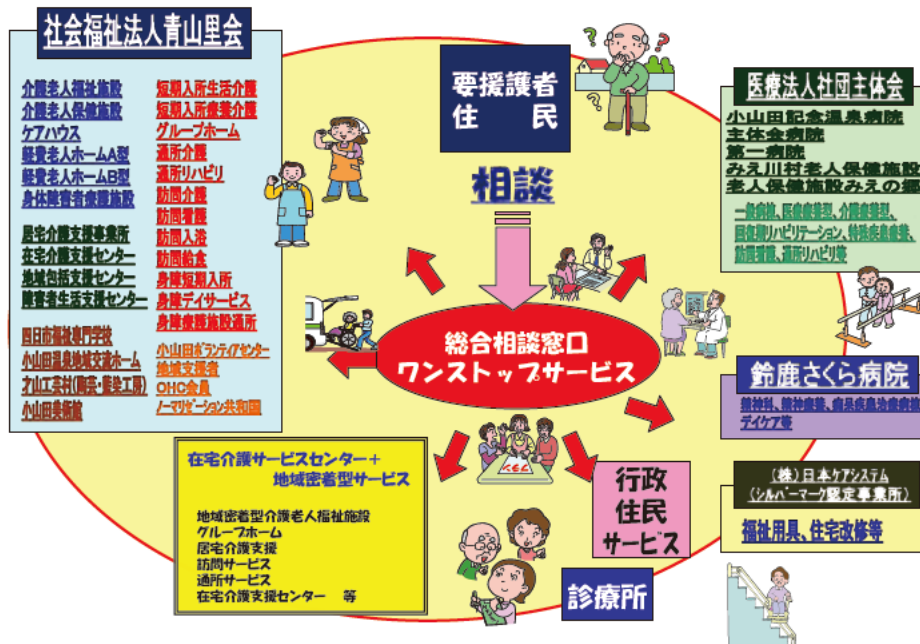


図 1

## 2 地域福祉活動の中核拠点

昭和61年に『地域と小山田の福祉施設群とを結ぶ窓口、交流する場』として「小山田温泉地域交流ホーム」を開設し、同年11月の「第一回小山田温泉まつり」を皮切りに、「夏まつり盆踊り大会」など数々の地域イベントを開催、会員制の健康増進クラブ「小山田温泉ヘルシークラブ(OHC)」を設置して温泉の利用法や健康相談、健康づくり事業等を実施するほか、ボランティア活動や趣味、文化活動の拠点としても幅広い活動が行われている。また、平成3年の「ぴあ小山田ホール」の増築に伴い、地域における医療・保健・福祉の総合相談窓口である「在宅介護支援センター」を全国に先駆けて開設、平成18年より「四日市市南地域包括支援センター」を置き、地域包括ケアのプラットフォームとワンストップサービス拠点として活動を行っている。

現在新たにOHCの事業として、いつまでも若々しく、楽しく、誰でもできる健康づくりをテーマに「健康まもりたい(隊)」の取り組みを平成20年9月から開始している。この「健康まもりたい(隊)」は従来の運動機能や栄養状態といった個々の改善を目指すだけの介護予防事業ではなく、一人ひとりの生きがいや自己実現のための取り組みを支援して、生活の質の向上を目指すものであり、誰でも楽しみながら参加できる「健康づくり」が必要であると考え、地域包括支援センターのスタッフだけでなく、法人内の管理栄養士、OT、PT、音楽療法士、プロ歌手等、それぞれの専門家の視点を生かしたさまざまなプログラムが行われている。

具体的な活動としては、毎週木曜日13:30～15:30の時間帯で、健康チェック、ストレッチ・体操を基本に、ウォーキングや呼吸法と発声法、ミュージックアクティビティ等、週替わりでメニューを用意している。現在、毎回平均30人の参加があり参加者も定着してきているが、今後一人ひとりのニーズを把握し、参加者個々の評価を行いながら新たなプログラムの開発に努めていきたいと考える。



小山田温泉地域交流ホーム



ボランティア交流会

## 3 地域の声を聞きたい～地域の要援護者の早期発見・対応を実現するために

当法人にある7つの地域拠点それぞれの在宅介護支援センターでは、地域住民と一緒に「住み慣れた町で安心して暮らせるまちづくり」について考える、具体的には、①地域住民が福祉について学び共に考え、自由に意見が言い合える場、②地域住民の福祉に対する啓発につながることで、③地域で互いに支えあう町づくりを目指すという目的で、地域の一般住民を対象とした保健・福祉・医療等に関する学習会（小山田学校、常磐塾、四郷地区福祉教室、川島福四学習会、かんざき学校、亀山学校）を毎月あるいは隔月で開催している。

この勉強会のルーツは、平成2年5月の「第一回小山田学校」まで遡るが、当初は勉強会というよりも、とにかく「地域の方々と膝を突き合わせていろいろな話がしたい」、「地域の人々の考えを知りたい」というような思いでスタートした。地域住民の声に素

直に耳を傾け、地域にあるさまざまな課題についてともに考えるという場は非常に重要であり、この小山田学校の開校こそが、地域の総合相談窓口である在宅介護支援センターの活動基盤を作り上げることに繋がった。

現在では、より小地域（町単位、自治会単位）での新たな取り組みや活動等に繋がってきており、運営の主体が在宅介護支援センターから地域住民主体にシフトし、在宅介護支援センターは必要な時に必要な場面でその運営あるいは住民を支援するというスタンスに変わってきている。



小山田学校



亀山学校

#### 4 地域支援活動～社会福祉法人のもつ資源を地域へ～

当法人の地域福祉事業の理念のひとつである、『「地域の生活支援の拠点法人」であることを自覚し、絶えず地域住民との情報交換（コミュニケーション）を欠かさず、地域に編成されたサービスの工夫開発に視点を置くこと』から、当法人の行うイベントや勉強会に地域の方々に参加してもらうだけでなく、各拠点それぞれの地域の盆踊り、文化祭、運動会等々にもさまざまな形で積極的に出かけて参加するように努めてきた。具体的には、出前講座や出前ミュージックアクティビティ、出前バンド演奏、機材や備品の貸し出し、福祉サービス等の紹介パネルの展示、介護相談、健康チェック、模擬店の設置など、法人の有する資源《人・物・情報・専門性等》を提供することで地域の活性化の支援を行っている。これらの地域支援活動は、当法人の7つの地域拠点のみならず、他の地域にも広がってきている状況である。

あくまで地域にこだわり、地域とともに協働してさまざまな地域交流や地域支援活動に取り組んできたことは非常に大きな財産であり、今後の当法人の方向性を見据えていく上で新たな事業展開に繋がるものだと考える。



介護体験（中学校）



出前ミュージックアクティビティ



## 5. まとめ

地域福祉事業の総合拠点化は社会福祉法人のミッションであり、コミュニティソーシャルワークの展開における住民ニーズの把握はとりわけ重要である。地域の中には、虐待、孤立死、認知症等々、数限りない問題や課題が存在する。更には、顕在化していない地域課題は無数に存在する。私たちの役割は、顕在化している課題を解決することはもとより、潜在化している地域課題をいかに表出させるかが最も重要なことである。

すべての人が隣に住む人のことを“ほんの少しだけ”でも気にかけて、それが地域での最も大きな「見守り」へと変化する。もし万が一何か変化があれば、当法人の在宅介護支援センター等にたった一本の電話をすれば、要援護者の発見に繋がるということもひとりでも多くの地域住民に認識を促し、地域ケアネットワークシステムの構築を図っていくことが今後非常に重要なことである。

平成12年の介護保険制度の施行当時は、社会全体が介護保険一色となっていた傾向があったが、介護保険制度を生かしていくためには、その土壌として地域社会がある程度成熟していく必要がある。地域住民が自らの問題としてこれを認識し、自分たちが地域全体の要援護者等を支えるという意識を持つことが、地域そのものの「力」となり、「安心して住み続けられるまちづくり」へつながることを強く認識したいと考える。

## わたしたちの地域福祉事業

### 1. 地域交流活動

盆踊り大会、小山田温泉まつりでは6~8千人の地域住民と交流する他、拠点での日常的な地区社協等の地域活動への参画等

### 2. 地域勉強会活動

地域住民と膝を突き合わせて様々な話がしたい！地域の考えを聞きたい！と平成2年から開始した各地域での勉強会等の開催。

### 3. 研究活動

地域のニーズを調査・分析しサービスを開発。安心住空間支援システムに関する調査研究では孤立化防止拠点について研究。

### 4. 地域支援活動

地域のニーズに対して、出前講座、出前ミュージックアクティビティ、出前バンド演奏、機材や備品の貸出、相談コーナー、模擬店、ゲームコーナーの設置など。

### 5. 地域生活支援事業

OHC(小山田温泉ヘルシークラブ)の健康づくり支援事業として健康守り隊を結成。日常生活の中での健康づくりの実現を目指す。

### 6. 地域安心拠点活動

災害時の地域住民の受入れを想定した非常食の備蓄や備品の確保、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードへの参加等。

地域福祉活動とは生活と言う連続性の中で、**同じ時間、同じ空間を共有しながら、一緒に行うまちづくりのための共同作業**であって、その社会の中で、**教育・研究・実践という行程をスパイラルさせながら進展させていく活動の総称**と考える。  
地域福祉活動の目的は、**地域の潜在的な福祉課題を、地域住民との話し合いによって、顕在化させて、社会福祉法人が有する専門的な機能でその課題を解決すること。**  
地域交流とは、**地域社会の中にあって仲間作りや積極的に他者との交流を図り、関係性を築いていく実践**であり、地域福祉活動の重要な視点である。